

平成29年7月5日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9414 URL <http://www.bs11.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 齋藤 知久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営戦略局長 (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03 (3518) 1900
 四半期報告書提出予定日 平成29年7月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年8月期第3四半期の業績(平成28年9月1日～平成29年5月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年8月期第3四半期	8,342	11.8	1,750	5.1	1,752	5.1	1,196	5.3
28年8月期第3四半期	7,462	13.5	1,666	9.3	1,667	12.8	1,135	20.2
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
29年8月期第3四半期	67.20		—					
28年8月期第3四半期	63.80		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年8月期第3四半期	16,308	15,174	93.0
28年8月期	15,980	14,280	89.4

(参考) 自己資本 29年8月期第3四半期 15,174百万円 28年8月期 14,280百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年8月期	—	0.00	—	17.00	17.00
29年8月期	—	0.00	—		
29年8月期(予想)				18.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年8月期の業績予想(平成28年9月1日～平成29年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	17.5	2,200	4.3	2,200	2.9	1,460	0.0	82.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年8月期3Q	17,802,832株	28年8月期	17,802,832株
② 期末自己株式数	29年8月期3Q	134株	28年8月期	94株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年8月期3Q	17,802,731株	28年8月期3Q	17,802,738株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料2ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日本銀行による金融緩和策などを背景に、企業収益や雇用・所得環境に改善が見られ、景気は穏やかな回復基調となりました。しかしながら、中国を始めとする新興国経済の停滞や米国新政権の影響、世界的な地政学リスクなどにより依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の71.5%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しており、またBSデジタル放送事業を含む衛星放送メディア分野の広告費は前年比で3.9%の伸長、中でもBS放送の広告費は、前年比で4.0%増と堅調に推移しております（「2016日本の広告費」(株)電通調べ）。

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え、幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として、「豊かで癒される教養・娯楽番組と中立公正な報道・情報番組を発信し『価値ある時間』を約束します」との経営ビジョンに基づき、良質な番組制作に引き続き邁進いたしました。

平成29年4月の番組改編では、良質な番組制作による視聴世帯数増加を目的として、タレントの島崎和歌子さんを司会に、毎回豪華なゲスト歌手が視聴者のリクエストに応え、生放送で昭和の名曲を歌いあげる「あなたが出会った 昭和の名曲」、歌舞伎俳優の尾上松也さんが著名な学者や歴史に造詣が深い作家や俳優と共に、今に残る資料だけでは見えてこない歴史ミステリーに迫る「尾上松也の謎解き歴史ミステリー」、京都在住の俳優、本上まなみさんが奥深い魅力に満ちた京都の歴史・文化・風物詩を紹介する「京都浪漫～美と伝統を訪ねる～」をレギュラー番組として放送を開始いたしました。

さらに「開局10周年特別番組」と銘打って、平成28年12月に単発番組として放送し、好評を博した「高橋英樹のクイズ!なるほど歴史館」の第2弾や、輝かしい昭和の時代を懐かし映像と共に振り返る「あの時代にもう一度逢いたい」などを放送、特別番組にも積極的に取り組みました。

また、アニメファンから根強い人気を誇る『ANIME+』において、実写映画化もされた人気小説を原作としたアニメ「サクラダリセット」、田舎の観光協会で働く女の子達を描いた「サクラクエスト」を放送、制作委員会への出資も行いました。さらに人気の映画「バイオハザード」シリーズを一挙放送、話題の作品にこだわったアニメ、ドラマ、映画編成等が、売上増加に寄与いたしました。

費用面につきましては、引き続き番組関連費用等の効率的なコントロールに努めながら、番組宣伝のための施策として、全国紙・地方紙への広告出稿を戦略的に実施したほか、首都圏主要駅周辺への看板掲出など、様々な媒体を活用した広告宣伝施策を実施いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は8,342,684千円（前年同期比11.8%増加）となりました。営業利益は1,750,841千円（前年同期比5.1%増加）、経常利益は1,752,166千円（前年同期比5.1%増加）、四半期純利益は1,196,327千円（前年同期比5.3%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ327,766千円増加し、16,308,245千円（前事業年度末比2.1%増加）となりました。主な要因は、現金及び預金が481,719千円増加したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ565,870千円減少し、1,133,738千円（前事業年度末比33.3%減少）となりました。主な要因は、未払法人税等が289,574千円、流動負債のその他が310,504千円それぞれ減少したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ893,637千円増加し、15,174,507千円（前事業年度末比6.3%増加）となりました。主な要因は、利益剰余金が前事業年度の期末配当302,646千円の支払により減少したものの、四半期純利益1,196,327千円の計上によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年8月期の業績予想につきましては、平成28年10月7日付の「平成28年8月期 決算短信」で公表しました業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期会計期間から適用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年8月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,893,550	7,375,269
受取手形及び売掛金	1,838,346	1,860,966
番組勘定	127,798	57,569
その他	134,031	104,429
貸倒引当金	△100	△100
流動資産合計	8,993,626	9,398,136
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,414,076	2,356,694
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	317,375	288,862
有形固定資産合計	6,766,208	6,680,313
無形固定資産	9,402	8,481
投資その他の資産	211,240	221,314
固定資産合計	6,986,852	6,910,109
資産合計	15,980,479	16,308,245
負債の部		
流動負債		
買掛金	364,440	394,423
未払法人税等	487,847	198,273
その他	788,233	477,728
流動負債合計	1,640,521	1,070,424
固定負債		
退職給付引当金	42,381	48,707
その他	16,706	14,605
固定負債合計	59,087	63,313
負債合計	1,699,608	1,133,738
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,198	4,183,198
資本剰余金	3,516,989	3,516,989
利益剰余金	6,580,778	7,474,459
自己株式	△96	△139
株主資本合計	14,280,870	15,174,507
純資産合計	14,280,870	15,174,507
負債純資産合計	15,980,479	16,308,245

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日)
売上高	7,462,254	8,342,684
売上原価	3,382,673	3,950,557
売上総利益	4,079,580	4,392,126
販売費及び一般管理費	2,413,230	2,641,285
営業利益	1,666,350	1,750,841
営業外収益		
受取利息	720	33
その他	695	2,201
営業外収益合計	1,415	2,235
営業外費用		
支払利息	645	740
その他	—	170
営業外費用合計	645	911
経常利益	1,667,120	1,752,166
特別利益		
受取補償金	23,940	—
特別利益合計	23,940	—
税引前四半期純利益	1,691,060	1,752,166
法人税、住民税及び事業税	511,197	526,930
法人税等調整額	43,981	28,908
法人税等合計	555,178	555,838
四半期純利益	1,135,882	1,196,327

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。